

# 2008年度実証実験成果報告 京都産業大学1

京都産業大学/Shibboleth2

[京都産業大学に戻る](#)

Shibboleth IdP, SP, DSの構築 (2008年度実証実験成果報告より)

- [Shibboleth IdP, SP, DS の構築](#)
  - [Shibboleth SP v2.1.1](#) および [Discovery Service v1.1.0](#) での注意点

## Shibboleth IdP, SP, DS の構築

京都産業大学コンピュータ理工学部では JA-SIG で開発されている Central Authentication Service (CAS) のサーバを運用しているが、まずは実証実験に参加するためにテスト用の Shibboleth Identity Provider, Service Provider, Discovery Service を構築することにした。IdP, SP については手順書どおりで特に問題なく構築することができたが、Discovery Service についてはバージョンアップにより若干対応が必要であった。

サーバ環境・導入したソフトウェア

Host OS: MacOS X Server 10.5.6

VMware Fusion 2.0.1

Apache 2.2.9 (mod\_ajp)

Shibboleth SP v.2.1.1 (mod\_shib, shibd: MacPorts shibboleth)

Guest OS: CentOS 5.2

Java 1.6.0\_11

Shibboleth IdP v2.1.2

Discovery Service v1.1.0

## Shibboleth SP v2.1.1 および Discovery Service v1.1.0 での注意点

Discovery Service では AuthnRequest を受け付ける Shibboleth SP の Metadata を登録しておく必要がある。Shibboleth SP では

<https://sp01.example.org/Shibboleth.sso/Metadata>

のような URL で Metadata を export する機能を提供しているが、v2.1.1 では Discovery Service 用の <Extensions> タグで Binding の情報を出力してくれない。Discovery Service v1.0.0 では Binding の情報をチェックしていなかったが、v1.1.0 からはチェックし、定義されていない場合はエラーとするため、Binding の情報を追加する必要がある。これについてはバグとして開発者側で認識されている。

- [DS accepts SP endpoints without checking Binding attribute.](#)

Shibboleth SP 側でのバグ対応が完了するまでは、以下のように手動で Binding の情報を追加する。値は xmlns の値をコピーすれば良い。

```
<md:Extensions>
  <DiscoveryResponse xmlns="urn:oasis:names:tc:SAML:profiles:SSO:idp-discovery-protocol" Binding="urn:oasis:names:tc:SAML:profiles:SSO:
idp-discovery-protocol" Location="https://sp01.example.org/Shibboleth.sso/DS" index="1"/>
</md:Extensions>
```

[京都産業大学に戻る](#)